

## 2005年の家計推計方法の検討(第1報:収入)

(社)日本リサーチ総合研究所 ○菊池章人

東京文化短大 内藤道子 相模女大短大 三宅栄子

目的 生活の質の向上が課題となった今日、労働時間の短縮、女性の社会進出、情報化、国際化、都市化、技術革新などの社会潮流を受けて、21世紀初頭には、勤労者のライフスタイルはどのように変化しているのだろうか。また家計はどのような状態にあるのだろうか。本研究は、近未来の2005年の家計構造を示すことを目標として、ライフステージと家計収入と家計支出を相互関連させて推計するシミュレーション方法を開発することを目的としており、第1報では家計収入の推計方法に関して報告する。

方法 家計収支を2005年までの年々の連続的な変化でとらえることができるように、推計対象世帯を特定化し、「首都圏の断層世代」の世帯を推計対象モデルとした。このモデル世帯について、まず収入の年々の変化及びライフステージの変化を推計し、家計支出は基本的にはこれらに規定されながら構成されるという視点で関連づけた。資料は、世帯構成とライフステージに関しては人口動態統計等を用い、収入及び労働時間に関しては賃金構造基本統計、労働時間の短縮レベルについては経済企画庁「生活大国5か年計画」(1992年)等を参考とした。

結果 シミュレーションフレームの結果に関する主な特徴は以下の通りである。第一。賃金構造基本統計においては、標準賃金の地域別値や各歳別値や超過労働給与等が得られないため、所定内給与と超過労働給与と年間賞与の各々について、地域別・男女別・学歴別・各歳別値を推計し、夫婦別のライフステージにリンクしうるようにした。第二。労働時間の短縮については、多分に政策的な取組みであることを考慮して2005年の達成水準を設定し、超過労働給与が労働時間の短縮に伴って減少していくものとした。以上の他に妻に関しては育児休業、パート労働等を考慮しながら2005年までの夫婦別の各歳別収入を推計し、この結果を合計して年々の世帯収入を示すフレームを作成した。